E_037

ミャンマー語の形式名詞構造の分析と日本語との対応

マニンコウシン†　　池田尚志†

Ma Ngin Khaw Cing　Ikeda　Takashi

1．はじめに

日本語には「の、こと、もの、ところ、とき、わけ、はず」などのいくつかの形式名詞があり、ミャンマー語にも10個ほどの形式名詞がある。ここでは形式名詞「①သည်、②မည်、③ရန်、④စရာ、⑤အရာ」について分析し、考察する。ミャンマー語は日本語同様膠着語である。そのため日本語との共通性が多く見られるがもちろん独自的な面もある。日本語とミャンマー語いずれの言語でも形式名詞の前にはそれを連体修飾する埋め込み文がある。日本語の場合埋め込み文の動詞、形容動詞は連体形をとり、その直後に形式名詞が続くという統一的な形をとるが、ミャンマー語の場合はその接続状況にいくつかの場合がある。ミャンマー語の言語構造についての研究は日本語のようにまだ十分には進んでおらず、他の言語との対照言語学的研究や論じたものも少なく、機械翻訳の観点からは全くない。本論文では、ミャンマー語の形式名詞に対する連体修飾構造について分析し、機械翻訳を念頭において日本語の形式名詞「の」の連体修飾構造との対応について考察する。

2．ミャンマー語の形式名詞

形式名詞はそれ単独では実質的な個別の意味をもたずそれを補充する修飾語がついて始めて意味を持つ名詞である。日本語では「の／こと」がその代表であり、埋め込み文全体を名詞化する場合と埋め込み文に関連する対象を抽象的に代用する名詞として使われる場合がある。ミャンマー語では埋め込み文を名詞化する形式名詞「①သည်、②မည်、③ရန်、④စရာ」と抽象的な代用として使われる形式名詞「⑤အရာ」の二種が区別される。本章ではこれらについて述べる。

2.1　ミャンマー語の形式名詞に対する修飾構造

二種の形式名詞に対する修飾構造

(a)埋め込み文を名詞化する形式名詞「①②③④」。
　日本語と同じく「埋め込み文＋形式名詞」となる。

(b)抽象的な代用となる形式名詞の「⑤」。
　「埋め込み文+連体接続助辞(သည်、မည်)+形式名詞 အရာ」となる。

2.2　埋め込み文を名詞化する形式名詞

形式名詞①သည်、②မည် は時制機能をあわせ持つ形式名詞であり、③ရန်、④စရာ は時制の機能をあわせ持つことがない。

2.2.1　時制機能をあわせ持つ形式名詞「①သည်、②မည်」

2.2.1.1　これから発生する或いは発生した事柄を名詞化する場合

形式名詞①သည်、②မည် はミャンマー語での抽象度の高い形式名詞であり、具体的な動作、出来事、状態などの事柄そのものを表す場合に用いられ、埋め込み文節を名詞化すると同時に時制機能をあわせ持つ。①သည်、②မည် はそれぞれ埋め込み文が表す事柄や時制(未来、非未来)によって使い分けされる。

形式名詞①သည် は発生した事柄又は出現した事態が過去の場合或は習慣や習慣的に繰り返し行われる反復を表す場合、普遍的真理の場合、また、瞬間動作、動作継続、結果継続などの場合に使われる。

形式名詞②မည် は埋め込み文が表すこれから発生する事柄、これから出現する予定を対象とする未来の場合に使われる。

(事柄の発生が非未来の場合)
(1)တရောကပြေး　[သည်]　ကို　ကျွန်တော်တွေ့ခဲ့သည်။
　太郎が走る　[の=ところ]　を　私　見た。

(事柄の発生が未来の場合)
(2)သူသည်ကျွန်ပ်ကမနက်ဖြန်နိုင်ငံခြားသိုသွား　[မည်]　ကိုသိနေသည်။
　彼は私が明日海外へ出発する　[の=こと]　を知っている。

2.2.1.2　可能や義務のモダリティが伴った内容を名詞化する場合

ミャンマー語では埋め込み文節を名詞化する際埋め込み文節が「可能」や「義務」のモダリティの意味を伴う場合そのまま名詞化することができない。名詞化する際発生するモダリティの意味を加わって名詞化する必要がある。以下例を挙げて説明する。

例(3′)の場合「家　に　帰る。」という文には社会的なルールとしての「義務」のモダリティ「なければならない」の意味が存在し、ミャンマー語ではその文を名詞化の際例(3)に示しているように「義務」のモダリティを表す補助動詞「ရ」を持ってその意味を加わって表す必要がある。

(事柄の発生が未来の場合)
(単文の場合)
(3′)家　に　帰る。
　အိမ်　သို့　ပြန်　သည်။

(名詞化「名詞節」の場合)
(3)家　に　帰る　(義務)　[の(こと)]　を忘れた。
　အိမ်　သို့　ပြန်　[ရ]　[မည်]　ကိုမေ့သွား　သည်။

† 岐阜大学工学部

例(4′)の場合で「海外へ旅行する。」という文の場合では例(3′)のようにはっきりとモダリティの意味が発生していない。しかし、その文を名詞化すると例(4)のように「何度か旅行する(できる)」という「可能」を表すモダリティで事柄の発生が普遍的真理を表す又は「これから海外へ旅行することかできる」という未来での事柄の発生が「可能」であることの意味が存在し、名詞化する際ミャンマー語では(海外へ旅行「できる」のが好きです。)のような意味の表現になる。

(事柄の発生が普遍的真理の場合)
(単文の場合)
(4′)海外へ　旅行する。
　နိုင်ငံခြားသို့ ခရီးသွား　　သည်။
(名詞化「名詞節」の場合)
(4)海外へ旅行する(できる=可能)の　が好きです。
　　နိုင်ငံခြားသို့ခရီးသွား　　ရ　　သည်　ကိုကြိုက်သည်။

2.2.2 予定、動作や精神的な状況を表す形式名詞「③ရန်、④စရာ」

形式名詞③ရန် は埋め込み文が表すこれからの行動の予定を表す。また形式名詞で文が終了する場合では命令を表す。④စရာ は動作や精神的な状況そのものの名詞化に使われる。
(予定の場合)
(5)အလုပ်လုပ်　ရန်　ဆုံးဖြတ်လိုက်သည်။
　就職する　こと　に　決めました。
(動作そのものの場合)
(6)ကျွန်ုပ်　လည်း　သွား　စရာ　　ရှိသည်။
　私　も　行く　こと　が　ある。
(精神的状況の場合)
(7)ပျော်　　စရာ　　အများကြီးရှိသည်။
　楽しい　こと　が　たくさんある。

2.3 抽象的な代用となる形式名詞「⑤အရာ」

この場合は形式名詞「⑤အရာ」が代表的であり、事柄が一般的であると考えられる物事の抽象的な概念、過去の経験の回想、説明するべき対象があって、それを解説する「もの、こと」の場合やそれらに関する状態を表す場合に抽象的な名詞の代用として使われる。

「⑤အရာ」の重要な特徴として以下のような二点が挙げられる。ⅰ実質的な意味を持たないが名詞としての機能を持ち、連体修飾を受ける場合名詞と同じ構造を持つ一種の名詞である。ⅱ時制とは関わりがない。しかし、この修飾構造は我々が連体接続助辞と呼ぶことにしている သည် あるいは မည် を介して名詞を修飾する構造をとり、連体接続助辞 သည်、မည် は連体接続の役割と同時に時制機能を担い、埋め込み文節が表す時制表現によって使い分けられる。「⑤အရာ」は「人、動物、時」などに関する場合には用いることができない。

(説明で非未来の場合)
(8)ဒီစာအုပ်သည်ကွန်ပြူတာနှင့်ပတ်သက်၍ရှင်းပြထားသည့်အရာ ဖြစ်သည်။
　この本はコンピューターについて説明した　もの=本です。
(説明で未来の場合)
(9)ဤစာအုပ်သည်သူငယ်ချင်းအားပေး　မည့်　အရာ　ဖြစ်သည်။
　この本は友達にあげる　もの　です。
(一般的な概念の場合)
(10)ယဉ်ကျေးမှုသည်နိုင်ငံနှင့်လိုက်၍ခြားနား　သည့်　အရာ　ဖြစ်သည်။
　文化は国によって違う　もの　だ。
(「もの」を表す場合)
(11)လဘက်ရည်ဆိုလျှင်ပူ　သည့်　အရာ　ကိုကြိုက်သည်။
　お茶は熱い　の　が好きだ。

人、動物や時などの生物に関する事柄を表す場合では形式名詞を用いる事がなく、個々別々のそれぞれに属する範囲の全体の共通的な要素（総称）の名詞を代名詞として持って形式名詞のように扱われる。

(人の場合)
(12)ကားမောင်းသမားထဲမှာဘယ်လိုပြောပြောသတိမထားသည့်လူကရှိသည်။
　自動車運転者の中にはどうも不注意な人=のがいる。
(動物の場合)
(13)ကြောင်သည်စားနပ်ရိက္ခာမဖြစ်နိုင်သည့်　တိရိစ္ဆာန်　ဖြစ်သည်။
　猫は食料になれない　動物=もの　だ。

3. 形式名詞「の」とミャンマー語の対応関係および翻訳規則

3.1 形式名詞「の」とミャンマー語の対応関係

形式名詞「の」は埋め込み文節が表す事柄全体そのものの名詞化と抽象的な代用名詞としての役割を持つ。しかし、いずれの場合も同じ表現構造をとり、ミャンマー語との対応の際ではそれぞれに異なった修飾構造(a)、(b)との対応を必要とする。そのうえ、日本語の形式名詞「の」は抽象度が高く、ミャンマー語との対応の際いくつかの形式名詞を持って訳す必要がある。以下「の」に対するミャンマー語への翻訳の際の判別条件対応考察を述べる。

3.1.1 形式名詞「①သည်」の場合

形式名詞①သည် は事柄の発生時が非未来である以下の場合に使われる。

- 埋め込み文節述語用言が過去、完了の状態を表す「タ形」である場合。
- 埋め込み文節が状態を表す瞬間動作、動作継続、結果継続の状態を表す「ている、てある」の場合。
- 埋め込み文節の述語用言が「ル」形の場合で事柄又は出現した事態が習慣的に繰り返し行われる反復、普遍的真理を表す出来事の状態を表す場合。

しかし、埋め込み文節の述語用言が「ル」形の場合の時制の関連性については上述以外に未来を表す場合があり、形式名詞「①သည်、②မည်」の両方と対応する必要がある。次に述べる場合では「②မည်」を使い分けする。

3.1.2 形式名詞「②မည်」の場合

形式名詞「②မည်」は事柄の発生が未来の場合に使われ、日本語との対応は文脈情報の時制副詞を頼り、訳語を特定

することにし、形式名詞「①သည်、②မည်」それぞれの訳し分けを(表 1)規則②③④に対して規則⑤⑥に添って訳語選択する翻訳規則を作成した。

3.1.3 補助動詞「ရ」の挿入が必要な場合

埋め込み文節の名詞化に「義務」や「可能」のモダリティの意味が存在する場合それらに対応するミャンマー語のモダリティ表現補助動詞「ရ」は不可欠な要素である。
観察結果この構造は日本語の形式名詞「の」が埋め込み文節が表す事柄そのものを表す場合にみられ、この構造をとるのは次の場合である。埋め込み文節の述語用言が動作動詞、感覚動詞、使役動詞であって、形式名詞「の＋は／が」が係る直後の形容詞／形容動詞が感情状態を表す場合。

このような「義務」「可能」と言った関係をとる場合を埋め込み文節と主節の述語用言から求めれば全ての場合を完全に識別できないが、わずかの場合をのぞけばかなりいい対応結果が得られると考察し、上述の場合に「ရ」を挿入することにした。(表 1)規則④

3.1.4 形式名詞「③ရန်」の場合

形式名詞「の」が予定を表す場合又は「の」が「こと」を表す場合にミャンマー語の形式名詞「③ရန်」が使われる。しかし、この形式名詞の場合日本語との対応関係がかなり困難である。

3.1.5 形式名詞「④စရာ」の場合

「こと」「もの」の場合に多く使われる形式名詞である。精神的な状況を表す「楽しいこと」と「悲しいこと」などのほんのわずかな場合と「もの」の場合に多く使われる。この形式名詞「④စရာ」に対しては日本語の形式名詞「の」との対応の場合では使われているのが見当らなかった。

3.1.6 形式名詞「⑤အရာ」の場合

日本語の形式名詞「の」が「もの、こと」を表す場合で形式名詞が抽象的な代用として使われる場合ミャンマー語では連体修飾構造(b)をとるのは以下のような場合である。

■埋め込み文節の述語動詞が形容動詞、使役動詞、存在動詞である場合

■「埋め込み文節＋の　は／が＋N です。」の強調文の場合

3.1.7 形式名詞を用いない場合

この場合は特別で日本語との対応の際今まで述べた形式名詞対形式名詞の対応以外にミャンマー語の文法規則と表現構造により形式名詞を必要としない以下のような対象がある。

■助詞「の」を介した述語を伴う埋め込み文節の名詞化の場合ミャンマー語では形式名詞を用いない以下のような単文になる。

(14)お茶の熱い　の　をください。
ရေနွေးကြမ်း ပူပူ Φ ကို ပေးပါ။
(15)アパートの立派な　の　を建った。
ခန်းညားသောတိုက် Φ ကိုဆောက်ခဲ့သည်။

■日本語の埋め込み文の述語用言が序列・等級・程度などの最上位である度合いを表す副詞「一番」の修飾を受ける場合である。

「一番」が名詞、形容詞や述語用言を修飾する場合日本語とミャンマー語の表現構造が異なる㋕～㋖。さらに、名詞化を受ける場合副詞表現「一番」の影響を受け、前節(2)で述べた名詞化構造と異なり、本来の規則に従わない。この場合以下のような修飾構造をとり、形式名詞を用いることはない。しかし、その代用として人、動物、時制などに対するそれぞれの総称が形式名詞の役割として用いられる。

㋕一番＋(方位詞=左、右等)　⇒　方位詞＋အ＋ကျ＋ဆုံး
(16)一番左な　の　は John だ。
ဘယ်ဘက်အကျဆုံး လူ=人 မှာ ဖျန်ဖြစ်သည်။
㋖一番＋(動詞／形容動詞)　⇒အ＋V／Adj＋ဆုံး
(17)会社で一番偉い　の　は社長だ。
ကုမ္ပဏီတွင်အကြီးဆုံး လူ=人 မှာ ဥက္ကဋ္ဌဖြစ်သည်။
㋗一番＋(V=N と V の合わせ動詞)　⇒　N＋အ＋V＋ဆုံး
(18)夜に　一番目が見える　の　はフクロだ。
ညတွင်မျက်စိ အမြင်နိုင်ဆုံး တိရိစ္ဆာန်=動物 မှာ ဇီးကွက်ဖြစ်သည်။

3.2 日本語の形式名詞「の」のミャンマー語への翻訳規則

両言語の翻訳規則を上述の分析の点を着目し、それぞれに関する両言語に対する翻訳規則を以下のように作成した(表 1)。

表１　形式名詞「の」に関する翻訳規則

番	埋め込み文の述語	主節条件	構造	形式名詞	文数
①	「タ形」	名詞文以外	a	သည်	8
②	「ル形」(存在、使役形容動詞を除く)		a	※	42
③	進行形「ている、てある」		a	※	4
④	動作動詞、感覚動詞、使役動詞	主節用言が感情状態を表す	a＊	※	29
⑤	埋め込み文中時制副詞(今、明日など)	すべての場合	a	မည်	13
⑥	頻度副詞(いつも、毎日、毎度)		a	သည်	
⑦	形容動詞、使役動詞、存在動詞の場合		b＃	အရာ	37
⑧	述語用言	名詞文			120
⑨	全ての場合⑩⑪の場合を除く	のだ	c	Φ	62
⑩	名詞＋の＋用言	すべての場合			0
⑪	埋め込み文節述語用言が副詞「一番」の修飾を受ける場合				18
⑫	その他判断できる要素がない場合		a	သည်	0

注 1_(表 1)の＊は埋め込み文の述語動詞に補助動詞「ရ」の挿入。
注 2_(表 1)の「※」はテンスによる形式名詞「သည်、မည်」の選択が必要な場合を表し、規則⑤⑥に続いて訳語選択。
注 3_(#)は(b)の場合での「物」の場合形式名詞「အရာ」を用いるが「人」「動物」「もの」「時間表現」などの場合それぞれによる代名詞の訳語選択の場合を示す。
注 4_日本語の名詞文「だ」に対してはミャンマー語への翻訳の際大きな課題である。ミャンマー語では名詞文の場合書き言葉と話し言葉によって大きく違いがある。日本語との対応の際書き言葉の場合「名詞＋だ」の場合と「形式名詞(の)＋だ」の場合を分けて考察する必要がある。「名詞＋だ」の場合「だ」に対して補助動詞「ဖြစ်、ဟုတ်」を用いるとよい効率の結果がえられるのに対し「のだ」に対して補助動詞「ဖြစ်、ဟုတ်」を用いて対応するとミャンマー語の文法規則に従わない表現構造になる場合が多く出現し、考察の結果効率よい結果が期待できないことが分かった。それらの原因は完成助辞と形式名詞との関連が大きく影響されることから生じた結果である。補助動詞を用いない対応の方が高い正解率スキルを持っていると考察し「のだ」に対して「Φ= 翻訳しない」ことにした。

4. 翻訳規則の評価と問題点考察

4.1 翻訳規則の評価

本論文で提案した翻訳規則の有効性を確かめるため形式名詞「の」に関して考察した 291 文の例文を用いて、人手で評価した(表 2)。正解率(完全＋やや不自然であるが正解)としては 89%であった。作成した翻訳規則に関するそれぞれの問題点を以下考察する。

表 2 形式名詞「の」の翻訳規則の評価

形式名詞	合計文	完全正解	やや正解	誤訳	正解率
「の」	291	254	7	30	89%
		87.2%	2.4%	10.3%	

表 3 規則別詳細評価

対象文数		完全正解		やや正解		誤り	
規則①	8	8	100%	0	0%	0	0%
規則②	42	30	71.5%	0	0%	12	28.5%
規則③	4	4	100%	0	0%	0	0%
規則④	29	27		0		2	
規則⑤,⑥	13	2		0		11	
規則⑦	37	34	91.9%	0	0%	3	8.1%
規則⑧	120	103	85.8%	2	1.6%	15	12.5%
規則⑨	62	57	91.9%	5	8%	0	0%
規則⑩	0	0		0		0	
規則⑪	18	18	100%	0	0%	0	0%
規則⑫	0	0		0		0	
合計	291	254	87.2%	7	2.4%	30	10.3%

4.2 問題点考察

ここでは翻訳規則条件に従って手での評価を行った結果明らかになった誤り例文について取り上げ、理由を考察する。

(サ) 未来を表す形式名詞の場合。
時制による形式名詞選択の誤りで、文脈情報としての特定する要素がない場合の誤訳になる。考察の 291 文に 13 が出現し、11 文が誤りになっている。
誤訳になった例
(19) ぼくは手術を受ける$\boxed{の}$が恐ろしかった。
誤り例: ကျွန်တော်သည်ခွဲစိတ်ခံရ $\boxed{\text{သည်}}$ ကိုကြောက်ခဲ့သည်။
正解例: ကျွန်တော်သည်ခွဲစိတ်ခံရ $\boxed{\text{မည်}}$ ကိုကြောက်ခဲ့သည်။

(シ) 補助動詞の挿入の規則
モダリティを表す場合評価文中出現文が 29 文であって 2 文を除いてすべての場合規則に従ってモダリティ補助動詞「ရ」を挿入できた。以下の例は「埋め込み文節＋のは／が＋N です。」の強調文であったため正解の訳語を得ることができなかった例である。
(20) ぼくには両親の期待に添うのが苦痛だ。
誤り例:
ကျွန်တော်အတွက်တော့မိဘ၏ရည်ရွယ်ချက်အတိုင်းလုပ်သည့်အရာမှာစိတ်ညစ်စရာဖြစ်သည်။
正解例:
ကျွန်တော်အတွက်တော့မိဘ၏ရည်ရွယ်ချက်အတိုင်းလုပ်$\boxed{\text{ရ}}$သည့်အရာမှာစိတ်ညစ်စရာဖြစ်သည်။

(ス)作成した規則により構造(a)となるが、本来は構造(b)をとるべき対象の場合で評価文中 8 文であった。
(21) 彼女は英文を書く$\boxed{の}$がうまい。
誤り例:သူမသည်အင်္ဂလိပ်စာရေး $\boxed{\text{သည်}}$ မှာတော်သည်။
正解例:သူမသည်အင်္ဂလိပ်စာရေး သည့် $\boxed{\text{အရာ}}$ မှာတော်သည်။

(セ) その他の場合で不自然な訳語表現になる場合。
(注 4)で述べたように話し言葉と書き言葉の表現構造が異なり、我々が書き言葉を基本的にしているため、日本語の話し言葉に表れるのが多い「のだ」の場合ではやや不自然な訳語表現が起こりやすく、出現文 62 文中 5 文であった。
(22)きみの為を思って言っている$\boxed{の}$だ。
誤り例: သင့်အတွက်စဉ်းစားရှေ့ပြောနေသည်။
正解例:သင့်အတွက်စဉ်းစားရှေ့ပြောနေသည့်$\boxed{\text{အရာ}}$ဖြစ်သည်။

5. 最後に

本論文ではミャンマー語の形式名詞「①သည်、②မည်、③ရန်、④စရာ、⑤အရာ」について分析した。さらに日本語の形式名詞「の」の両言語の対応を考察し、翻訳規則を作成した。本論文の考察の例文はミャンマー語の文法構造を分かりやすく、明確に説明するため文献［1］、[3]、[4]と評価文等から抽出した。(表 1)規則 4 の動詞分類は文献[2]を用いて行った。さらに、これらの規則の改善考察、その他の日本語の形式名詞「こと」「もの」などについてもそれぞれとミャンマー語との対応考察、システムでの実装などが課題として残されており、今後の課題とする。

参考文献

[1] ミャンマー文部省『ミャンマー語基礎教科書』2003～2004
[2] 池原、宮崎、白井、他『日本語語彙体系』岩波書店 1997
[3] 名柄、広田、中西 外国人のための日本語例文・問題シリーズ 2『形式名詞』荒竹出版.1995
[4] 小林. 柏崎『形式名詞がこれで分かる』ひつじ書房. 2003